

1 指導事項と言語活動

(1) 指導事項

- 言葉や文、文章について、その正しさや適切さを判断したり、美しさ、柔らかさ、リズムなどを
感じ取ったりする感覚を意識したりして、語や語句を使うこと。 ([知識及び技能](1)オ)
- 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類した
り関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること ([思考・判断・表現力等] B「書くこと」ア)
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別し
て書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
([思考・判断・表現力等] B「書くこと」ウ)
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。
([思考・判断・表現力等] B「書くこと」オ)

(2) 言語活動について

事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動

【卒業文集を書く】(言語活動例・ウ)

- ① 12歳時点の自分を振り返り、未来に向けて書き残しておきたいこと(学びや価値、変容や成長、大切にしていること、夢など)を書き残すものとするが、基本的に題材が限定されない。
構成や文体などに決まった形式をもたない。
小学校の国語科としても、最後に書く長文。
⇒ 「何を書くか」「どのような文章を目指し、どうやって書くか」を自己決定する学習が可能。
つまり、これまでの「書く」学習を振り返り、ア「題材の設定、情報の収集、内容の検討」
の力を広く発揮し、改めて身に付けていくことが期待できる。
- ② 書面の構成から729字以内(27×27マス ※題名、氏名含まず)で書く。
⇒ 自分の思いや考えを伝えるためには、「どのようなエピソード(事実)を用いるか」「どのエ
ピソードを特に詳しく書くと効果的か、どれは簡潔に書くか」「詳しく(あるいは簡潔に)書く
にはどのような文や言葉で書くと効果的か」「文末表現の効果」などを思考しながら書く必要が
ある。つなわち、ウ「考えの形成、記述」の力を発揮することが期待できる。
- ③ 読み手として想定されるのは、未来の自分自身、家族、友達など。
⇒ 常に、自分の書き残したいことや目指す文章を意識し、そのための効果的なエピソードの使
い方、文や言葉の書き方を確かめながら、よりよい文章に向けて修正する。よって、オ「推
敲」の力を発揮することが期待できる。

2 単元目標

- 読み手に出来事の様子や自分の考えが伝わる卒業文集を書くために、語感や言葉に対する感覚
を意識して、言葉を選びながら文集を書く。
- 日常生活やこれまでの体験を振り返って自分を見つめ直し、自分の支えとなったものや大切に
しているもの、誰かへの思い、夢など、いまの自分を象る事柄から卒業文集に書きたいことを決
めたり、そのための効果的なエピソードを収集・選択したりする。また、文章全体を見通して、
出来事の様子や自分の考えが読み手に伝わるように、特定の場面の状況を詳しく描写したり端的
に表したりするために効果的な言葉や文を考えながら書いたり、書き直したりする。
- 卒業文集を書くという目的を意識して、自分の思いを表現するものになっているか自分で何度
も見直したり、そのために必要な学習を考えたりして、粘り強く文章を書こうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 言葉や文、文章についてその正しさや適切さを意識し、これまでに触れてきた文章やモデル文の中から優れた表現に気付いたり、自分の表現に生かしたりすることができる。</p> <p>(1)オ</p>	<p>② 「書くこと」において、自分の伝えたいことを決め、それが読み手に伝わるように、必要な情報を集めたり、適切な事例を選んだりして、書くことを明らかにしている。(ア)</p> <p>③ 「書くこと」において、自分の意見を明確に伝えるために、事実と自分の考えについて端的に書く部分と詳しく書く部分とを区別したり、語感を意識ながら書き表し方を工夫したりしている(ウ)</p> <p>④ 「書くこと」において、自分の伝えたいことが伝わる文章になるように、使用するエピソードや考えの書き方などを見返して必要に応じて書き換えている。(オ)</p>	<p>⑤ 読み手に伝えたいことが伝わる卒業文集を書くという目的に沿って、自分に必要な学習を考えたり、自分で何度も見直したり、友達と確かめながら、粘り強く文章を見直したりしている。</p>

4 指導と評価の実際(13時間)

第1・2時

- 卒業文集とは、自分たちにとってどのような意味をもつものなのか考えたり、どのような形式のものなのかをとらえたりする。
 - * 朝の読書等を利用し、卒業文集とはどういうものか、何を書くか、どう書くのかをとらえるために、より多くの卒業文集を読む。
- 自分が書きたいテーマ(大切に思っている成長、考えや価値、夢、出会い/出合いなど)の大筋を明らかにして、言葉に表す。
- 「卒業文」を書くために、どのような学習過程があり、どのような課題(必要になりそうな力)がありそうか、またそのときの解決方法にはどのようなものがありそうか、「学びの地図」で共有する。

第3・4【本時】・5・6時 ○ 自分が「卒業文」に書きたいことをはっきりさせる。 後述

第7・8・9時 ○ 自分の書き残したいテーマが伝わるように、書き方を工夫して文章を書く。

* 自分の課題や進捗状況に応じて、めあてを立て、学習方法を選んで解決していく。

(めあてや学習活動の例)

- ・ くわしく書くところと、簡潔に短く書くところについて、それぞれどのような言葉や表現を使うか考えて書くこと。
- ・ 自分の考えや思いを書くには、どのような言葉や表現を使うとよいか考えて書くこと。
- ・ 情景描写や比喩などの表現技法のよさを味わい、自分の文章に生かせるものはあるか考えること。
- ・ 事実と意見などの書き分けを意識し、文末表現にも着目して書くこと。
- ・ 題名について工夫して書くこと。

第10・11時 ○ 文章全体を読み返して、より自分の思いが伝わる文章になるように修正する。

(めあてや学習活動の例)

- ・ 内容の順番はこれが最適か、加えたほうがよい情報、削ったほうがよい情報はないか考えること。
- ・ もっと詳しく書いた方が自分のテーマを書き表すのにつながらないか考えること。
- ・ もっと短く書きまとめるべきところはないか、そのためにはどのような言葉や表現で書くとうよいか考えること。

第12・13時

- 清書し、友達と文章を読み合い、それぞれのよさを見付けて伝え合う。
- 単元で身に付いた力について振り返る。

【本時目標】

自分が卒業文集に書きたい思いや価値、学びを書き表すために必要なことを明らかにする。

【主な学習活動と内容】

1 自分のめあてと学習方法を確認し、自分が書きたい思いや価値、学びを文集として書くために必要な事柄を明らかにするために、解決方法を選びながら学習する。

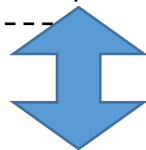
【学習開始時の児童の課題意識の例】

ア 自分のどのような思い、変容や学び、価値の気付きがあったのかを具体的に言えるようにしたい。(例:「がんばってきた水泳について書きたいな。水泳って僕にとってどんな意味があるのかな。」)

イ 書きたい価値や変容、学び等は言語化できているので、どうやって書けばいいのかわからない。(例:「何をすることも大好きな友達がいるから楽しいし、この一緒に笑ってくれる何気ない毎日こそが宝物なんだ」ということを書きたいな。でもどうやって書けばいいのかわからない。」)

ウ 書きたい価値や変容、学び等は言語化できているので、どのような材を使って、どのように組み合わせたいのかエピソードを整理したい。(例:「家族が苦しい時はもちろんだけど、どんな時でも毎日いつも支えてくれている感謝を書いておきたい。モデルにしたい文章のように書くには、どんなエピソードを選ばいいかな。」)

エ なんとなく書けそうなので、一度書いてみたい。



【児童の課題解決の例】

- 自分のテーマに関連しそうな文集を読んで、自分が書きたいことを明らかにする。
- ウェビングシートや付箋紙に、思ったことや思いだしたエピソードを書き出して、自分の書きたいことを明らかにする。
- 同じテーマを書こうとしている友達と話し、自分ならどうかを考える。

- 同じようなテーマを扱おうとしている友達と、どのような文章をモデルとしているか、どのようなことが書くポイントだと捉えているのか対話し、書くために何が必要そうかを明らかにする。
- 自分のテーマを書くために関連するエピソードを付箋などに書き出して整理する。
- 実際に文章を書いてみて、自分の経験や思いをふり返り、課題となるポイントを探る。

2 今日のめあてに対する成果や課題をふり返る。次時の学習についてめあて(何のために何をするか)を明らかにする。

- 「卒業文集に書くテーマと中心となる材」「使用するエピソードとその構成メモ」など、あらかじめ必ず教師と共有することを確認した事柄について、提出すること。
- ロイロノート上の「航海日誌」に、今日の成果が分かる物(使用したワークシートや原稿用紙等)とふり返りの記述、次回めあてを書いて、提出すること。

【評価規準】書くこと・ア

未来に向けて、12才の今の自分が卒業文集に残して伝えたい思いや価値、学びを書き表すために必要なことを明確にしている。

(次のいずれかに向かう姿)

※複数に当てはまっても可)

- 伝えたいテーマの具体化・言語化している。
- テーマを書き表すために必要なエピソードを集めたり整理したりしている。
- 効果的なエピソード、必要になるエピソードとはどのようなものか考えて、取材の視点を明確にしている。
- 720字で思いを書きまとめるために、必要になること、優先順位や軽重、不足していることをふり返っている。

【学習の様子(ワークシートなどへの書き込みや対話の様子)めあてと振り返りの記述】

【主な指導の手立て】

- 複数のワークシートやモデル文などを用意しておく。また、ロイロノート上でも作業ができるようにして、児童が自分の課題や学び方に合わせて選択できるようにする。
- 課題がはっきりしない/課題が実態と合わない児童、自分では課題に対しての解決方法が適切に選択できない児童への支援を行う。
 - ・ めあてがはっきりしていない児童と対話し、何ができるようになるとよい時間か確認する。
 - ・ 課題に応じて、読んでみるとよい文章を紹介できるようにしておく。
 - ・ その課題を解決している児童と、未解決の児童をつなぐ。(誰が何について書いているかわかるリストも作成・共有する)
- ロイロノートを活用し、教師のチェックを受ける場面や意見がほしい場面でメッセージを送るようにする。

6 成果と課題(単元全体をふり返って)

○ 指導事項の分析と解釈について



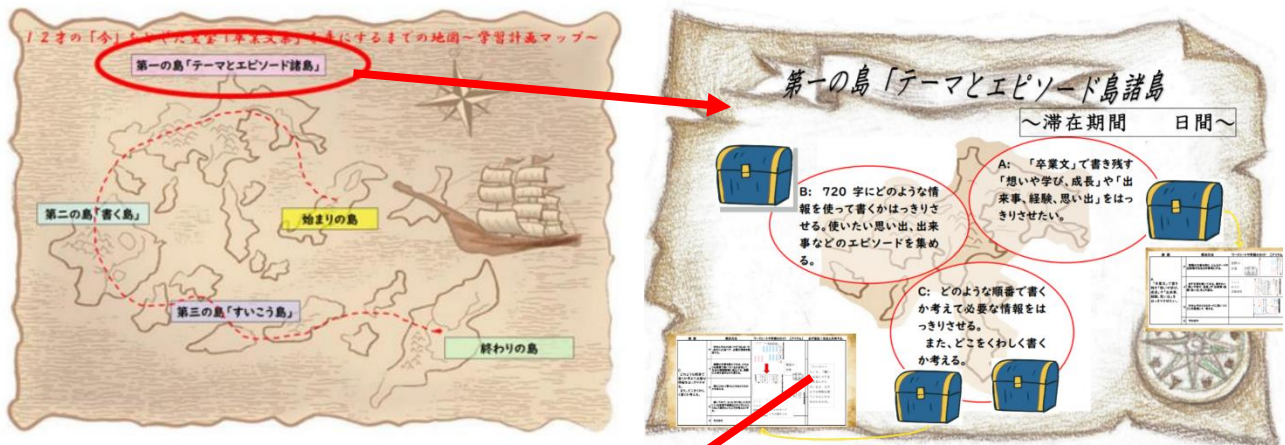
言語活動を通して指導事項を分析し、育成を目指す資質・能力を児童の姿で具体化した。これまでも、言語活動を通して、指導事項を児童の姿で具体化するということは大切にされてきたが、今回意識したことは、児童の姿を一つに規定するのではなく、「多様に想定する」ということである。一人ひとりの児童がどのような課題をもち、どのように解決しようとするのかなど、児童の学びの履歴や実態など様々な視点から指導事項を分析し、解釈することに努めた。

左の写真には、自分の目指したいモデル文を繰り返し読みながら自分なら何を書くかメモをとる子、付箋紙に書きたいテーマにつながるエピソードを書き出したり動かしたりして整理する子、そして、実際に文章を書いている子の様子が映っている。学び方はちがうが、どの姿も「自分が卒業文集に残したい思いや価値、学び等を書くために必要なことをはっきりさせようとしている姿」ととらえた。文章を書き始めている児童も、文章にしたり複数の文章を比べたりして、自分のもっとも伝えたいテーマは何か考え、関連するエピソードを整理していた。すなわち「書くこと・ア」の姿と解釈することができる。このように、一人ひとりの児童の学び方に応じて指導事項の具体の姿を多様に想定しておくことによって、目指す資質・能力を教師が明確化でき、個に応じた指導や支援の方法を考えることが可能になるので、児童にとって必然性のある学びをデザインすることになると考えた。

○ 児童と学びの共有を図る「学びの地図」について

児童自身が自分の課題や特徴に合わせて、学び方を判断するには、児童がゴールの姿や大まかな単元の流れを理解するだけでなく、それぞれの学習過程での「解決すべき課題」「解決方法の例」「必要になる視点など」も把握できるようにする必要があると考えた。そこで、児童と学びの共有を図るツールとして「学びの地図」を開発した。学習過程の各段階での具体的な課題やその解決方法(ワークシートなども)、視点やポイントなどの手引きも児童と共有し、自分ならどのような学習にしていくなか一人ひとりが計画を考えた。実際の学習中も、先の学習の課題や学習の手引きなどを眺め、次にやるべきことを考えたり、めあてを修正したりする様子が見られた。教師はめあてと学習方法にずれがある児童に声をかけたり、似た課題をもつ友達との対話を促したりしてコーディネートした。また、「地図」には、必ず教師と学習の成果を共有する場面も位置付け、「やらせっぱなし」にならないよう配慮した。

児童は、「学びの地図」を用いながら、自分が書きたいテーマは何かを明確にし、そのテーマを表現するためには、特にどのエピソードをくわしく書くべきか、どのような構成で書くとよいか自ずと考えるようになった。記述の段階でも「こんな文章にしたい」と書きたい文章をより具体的にイメージして、「この言葉とこの言葉では、自分の伝えたい思いは伝わるのか」「自分の伝えたい考えが表現できる言葉はほかにないか」と使う言葉と表現したい思いのつながりを意識する姿もよく見られた。こうした自分の思いを表現する言葉や文を意識する姿は、国語科に限らず、卒業前の家族や先生、下級生へメッセージを伝える場面等においても見ることができた。また、国語科の物語を読む単元においても、これま



課題	解決方法	ワークシートや学習のガイド【アイテム】	必ず提出！先生と共有する。
A 「卒業文」で書き残す「想いや学び、成長」や「出来事、経験、思い出」をはっきりさせたい。	A 実際の文集を読む。どんなテーマや出来事があるのか参考にする。	実際の文集	
	I まず文章を書いてみる。書きたい「想いや学び、成長」や「出来事・経験・思い出」をふり返る。	ノート ロイロ 原稿用紙	
	ウ 付せんやロイロのカードに思いつくことを整理して、考える。		
	E そのほか		

(ロイロノートを使い、単元の階層構造を整理しつつ、児童と共有した。地図の形が重要ではない。)

でより「筆者がここでこの言葉を使っているのはきっとー。」のように書き手の立場に立ち、用いられている言葉や表現から作品の全体像を捉えようとする児童が増えたことも印象的だった。このような、「言葉に自覚的になる」児童の姿が増えたのは、本単元の成果と考える。

児童の多様な学びに応じた支援や手引きなどを、前もって、あるいは、児童と相談しながら整えていくのは難しいが、「学びの地図」を広げて、指導計画や単元計画を児童と共に改善していくような授業づくりが、主体的に学び、言葉に自覚的になっていく児童の育成につながると感じた。